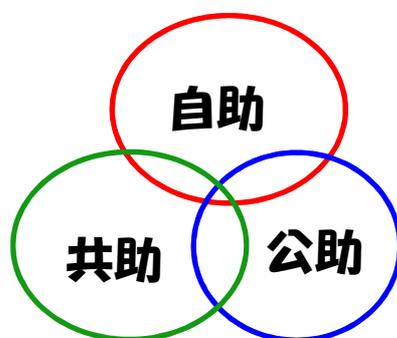


安城市校區別地震防災カルテ

学区：作野小学校区



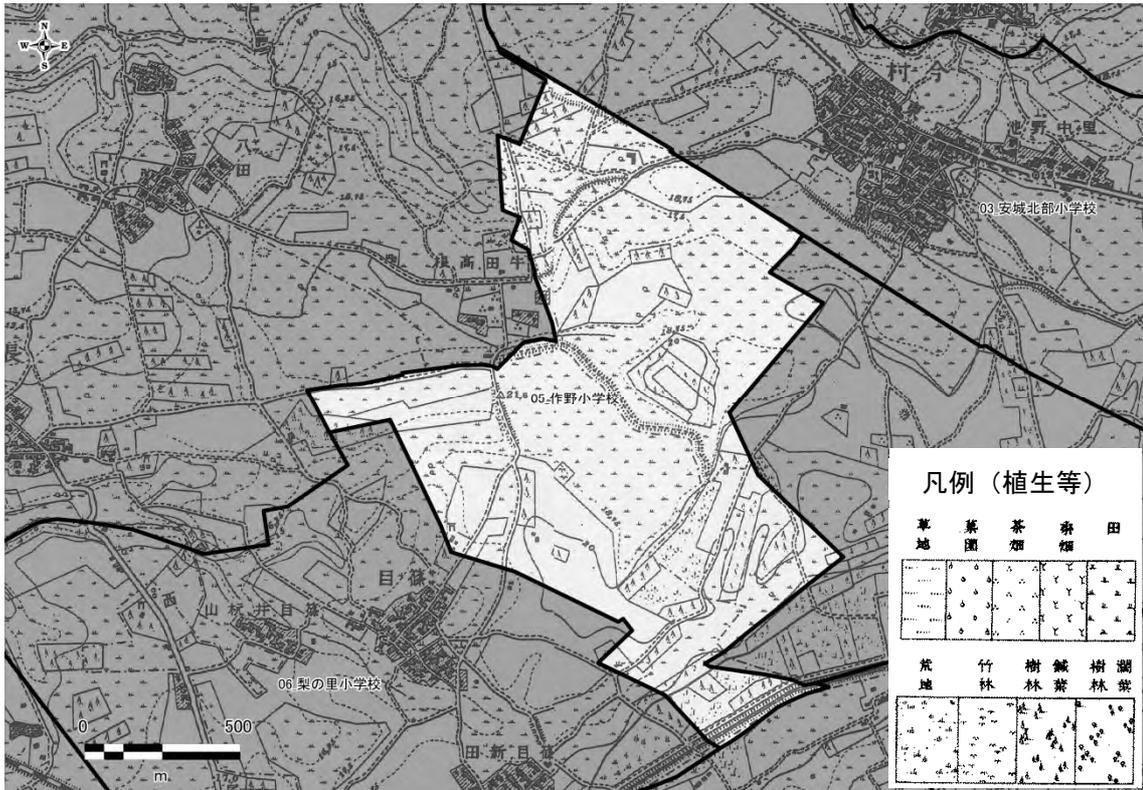
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

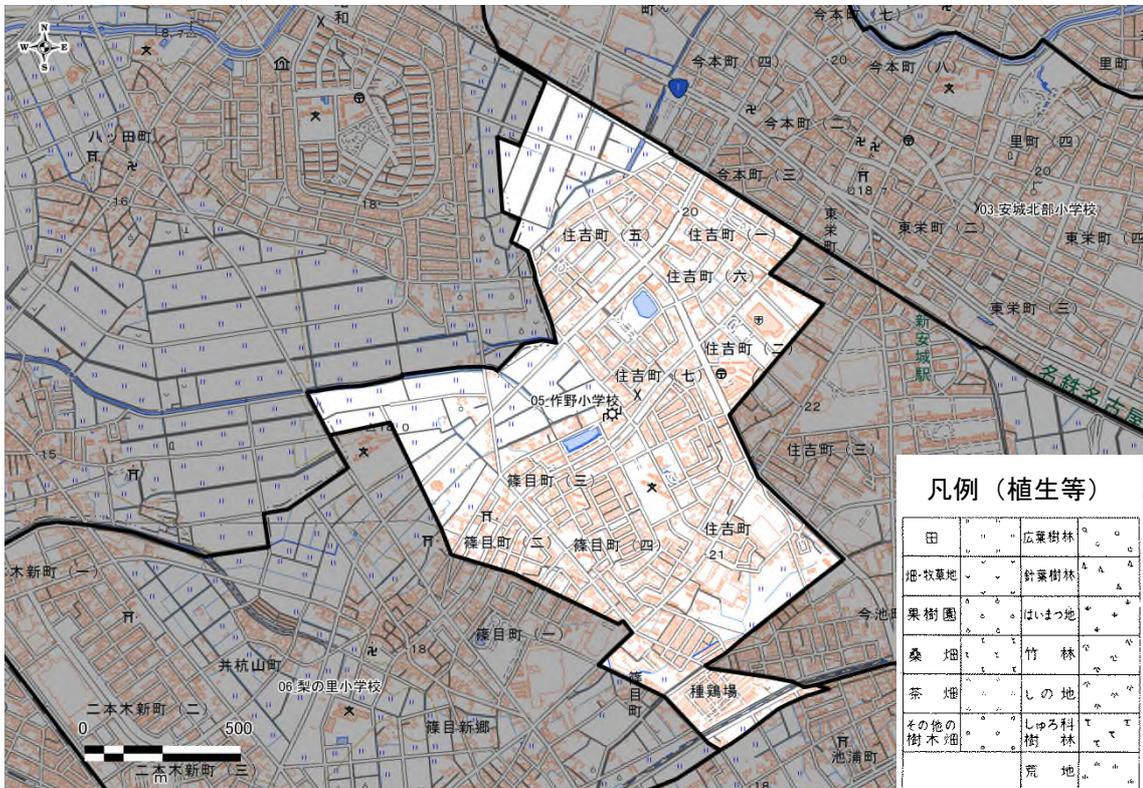
目 次

作野小学校区のおかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	9
8. 防災上の課題	9
9. 防災関連施設分布図	10

作野小学校区のおかしと今

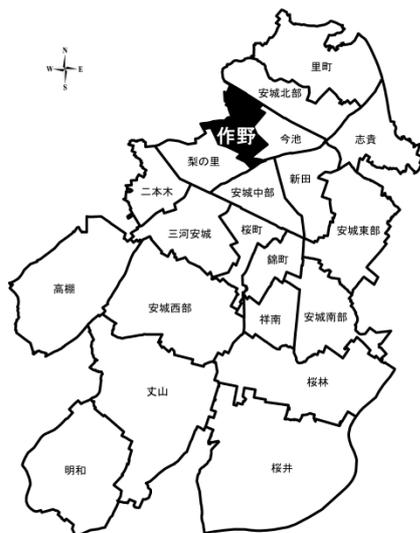


むかし (1890年 (明治23年) ごろ) の校区付近の地形

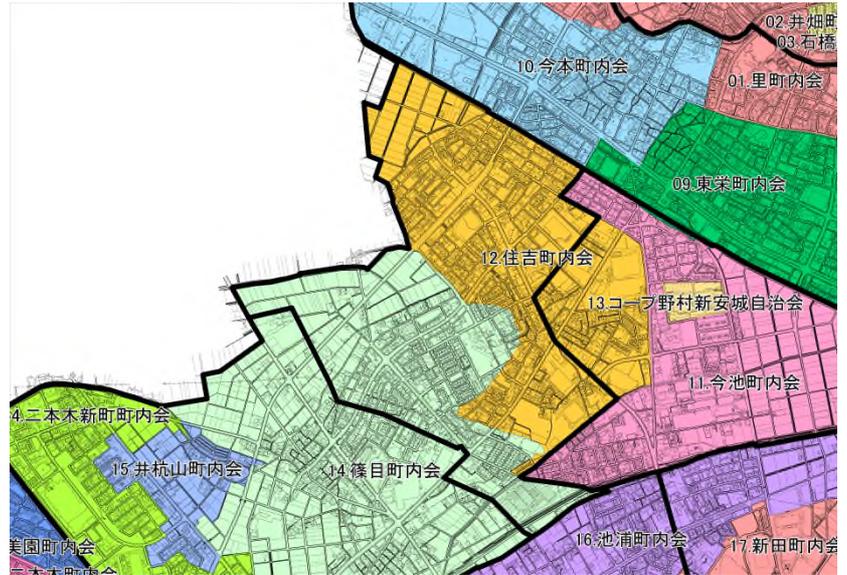


今の校区付近の地形

1. 校区の位置図



校区面積約 1.67km²
(安城市全体の 1.9%)



町内会区分図

2. 校区の構成

篠目町〔2丁目・3丁目・4丁目・池下・古林(市道古林畔古林1号線以北)・古林畔(市道古林畔古林1号線以北)・作野・新段留・長根・ニタ又〕、住吉町〔1丁目・2丁目・5丁目・6丁目・7丁目・荒曽根・小根・茅原・長根・南長根〕

3. 校区の概要

【位置】 作野小学校区は、市の北西部に位置する。

校区西側は知立市との市境となっている。

【土地】 校区北部には石田川が流れている。

標高は比較的高く、平地が広がっている。

【土地利用】 西部の一部の地域に田畑があるが、その他は住宅や商業用地となっている。

【交通】 南西方向に県道豊田一色線（12号線）が通っている。

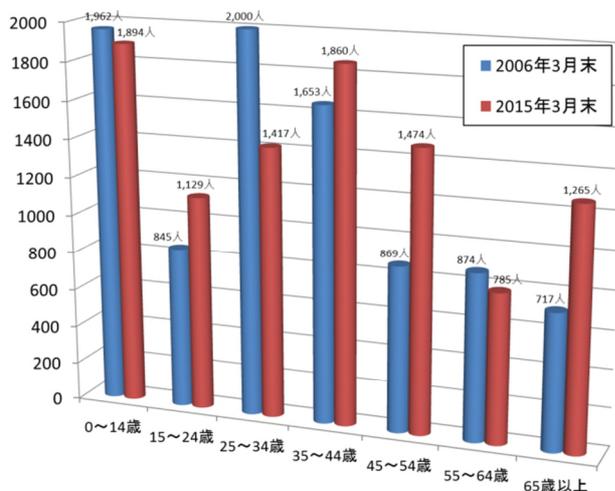
安城北部小学校区との境界には名鉄名古屋本線が通っている。

【その他】 町内会は、篠目町内会と住吉町内会

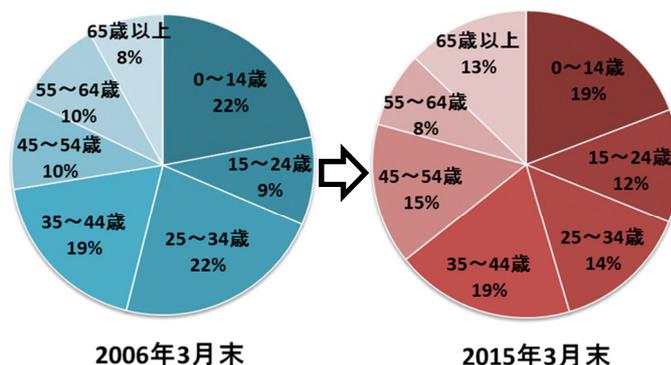
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は増加している。ただし、65歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,962人	22%
15～24歳	845人	9%
25～34歳	2,000人	22%
35～44歳	1,653人	19%
45～54歳	869人	10%
55～64歳	874人	10%
65歳以上	717人	8%
人口(合計)	8,920人	100%
人口密度	5,341人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	3,229世帯 (对全市 5.3%)	

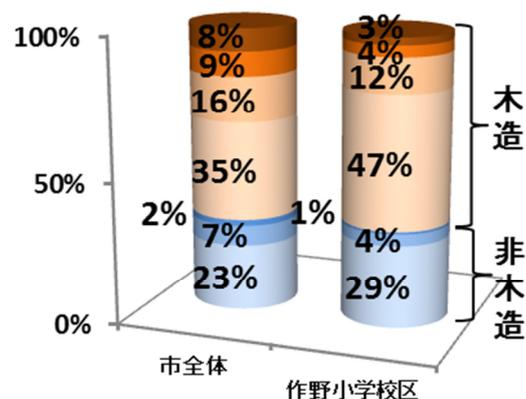


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,894人	19%
15～24歳	1,129人	12%
25～34歳	1,417人	14%
35～44歳	1,860人	19%
45～54歳	1,474人	15%
55～64歳	785人	8%
65歳以上	1,265人	13%
人口(合計)	9,824人	100%
人口密度	5,883人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	3,767世帯 (对全市 5.4%)	



【建物棟数】(2011年12月)

		建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	59棟	3%
	昭和37～46年	90棟	4%
	昭和47～56年	281棟	12%
	昭和57年以後	1,073棟	47%
非木造	昭和46年以前	18棟	1%
	昭和47～56年	95棟	4%
	昭和57年以後	666棟	29%
建物棟数(合計)		2,282棟	100%
1km ² 当たりの建物棟数(校区/全市)		校区: 1,366 / 全市: 699(棟/km ²)	



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。

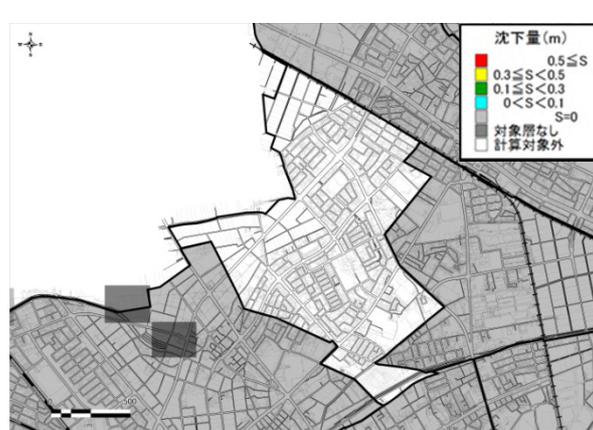
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



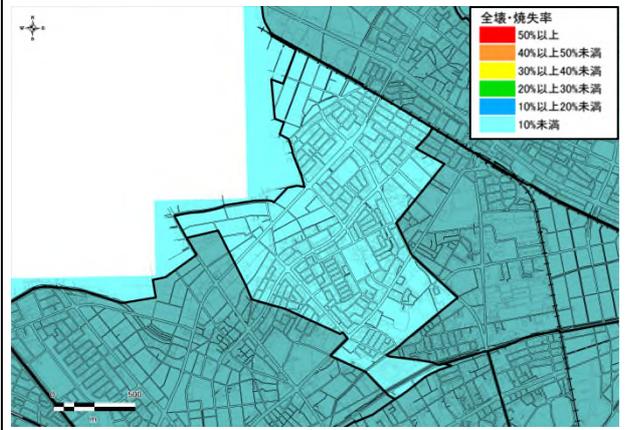
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



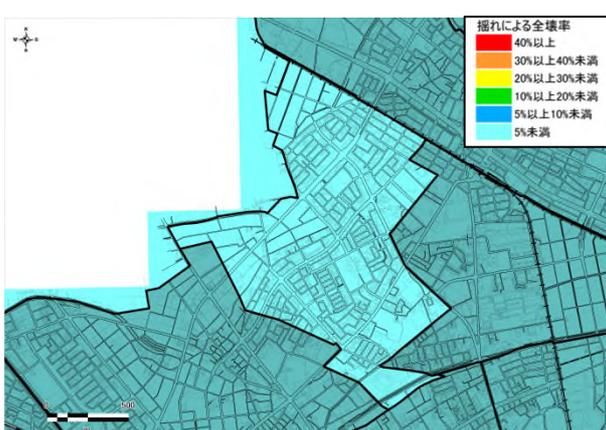
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



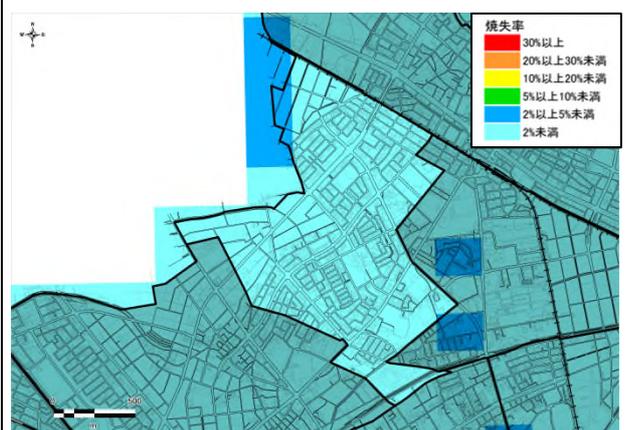
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

作野小学校区は、震度6弱の揺れが想定されている。震度6弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。液状化に関しては、校区が台地上にあるため、液状化の対象となっていない。

<建物・人的被害の予測>

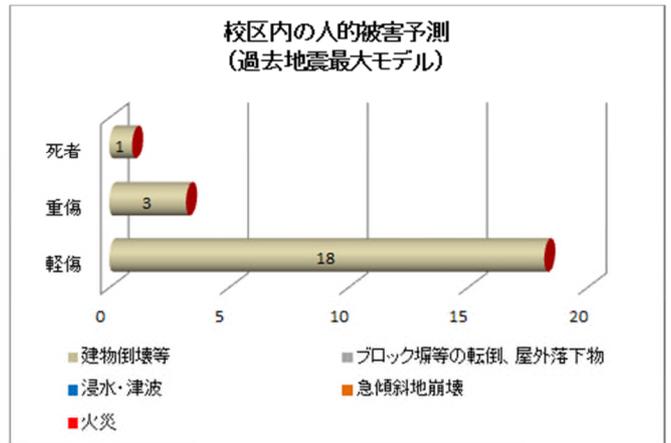
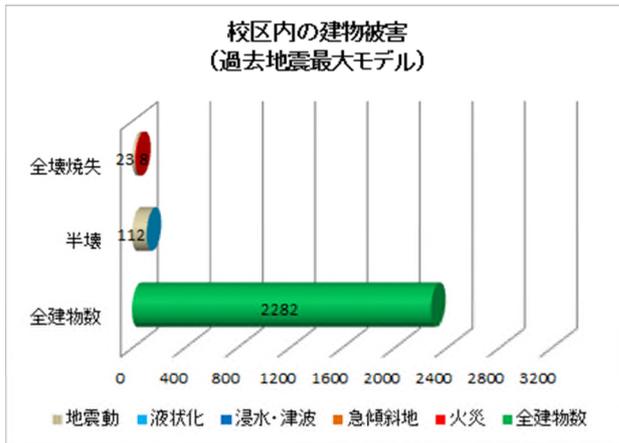
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数2,282棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	23	112
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	8	—
建物被害総数	32(1.4%)	112(4.9%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口9,183人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	1	3	18
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	*	(1)	(3)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	*	*	*
被害者数合計	1(0.01%)	3(0.04%)	18(0.20%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
作野小学校区	237	142	95	1,218	609	609	236	71	166
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。

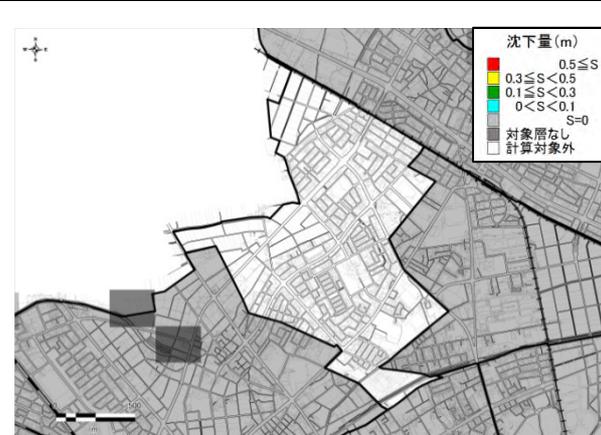
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



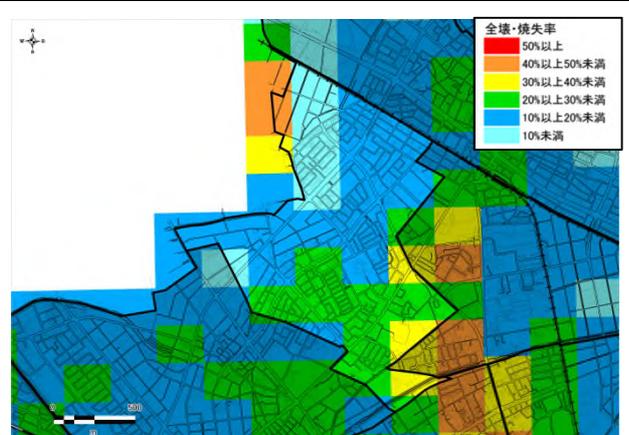
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



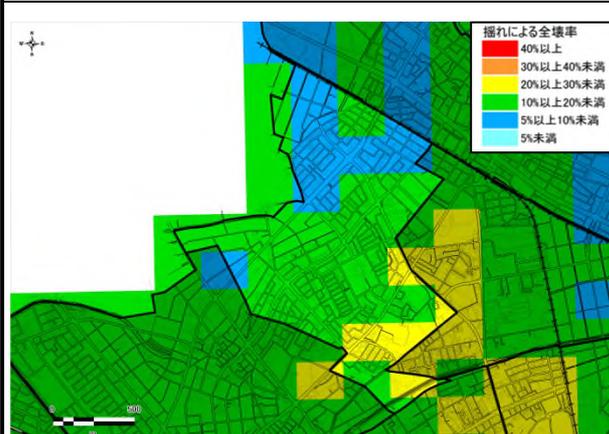
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



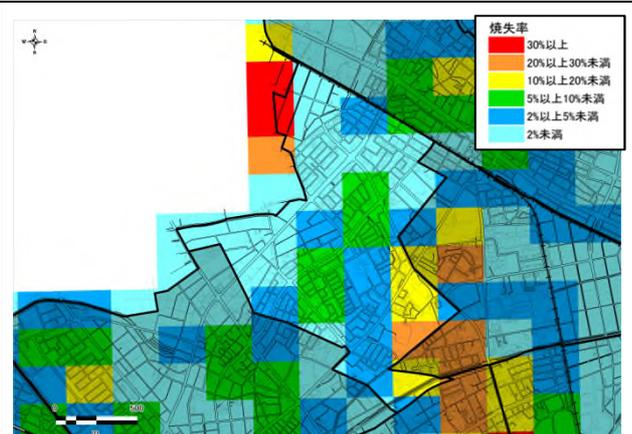
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

作野小学校区は、震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 強は、はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。
液状化に関しては、校区が台地上にあるため、液状化の対象となっていない。

<建物・人的被害の予測>

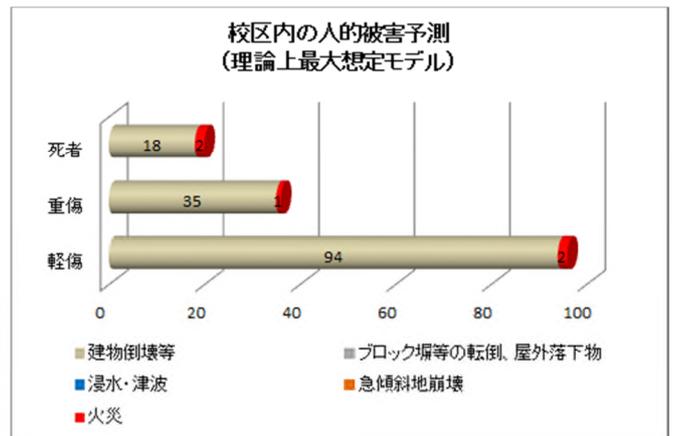
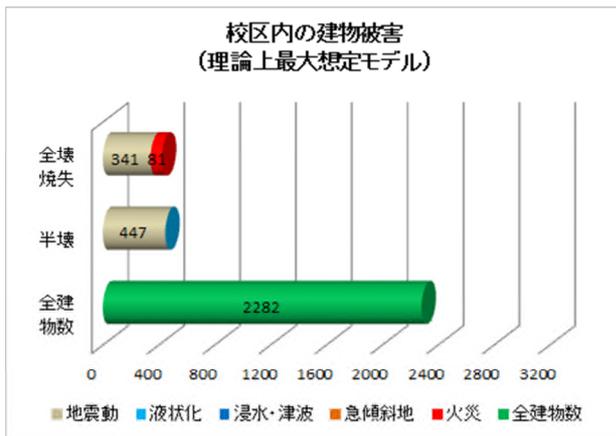
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数2,282棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	341	447
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	81	—
建物被害総数	422(18.5%)	447(19.6%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口9,183人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	18	35	94
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(1)	(7)	(26)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	2	1	2
被害者数合計	19(0.21%)	36(0.39%)	95(1.04%)

* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	作野交番
緊急時ヘリポート可能箇所	—
消防署	—
消防団	—
拠点病院・救急病院・災害医療救護所*	八千代病院
自主防災組織数	2
防災倉庫・防災資材庫	作野小学校、作野公民館、作野福祉センター
応急給水施設	作野小学校、作野公民館、作野福祉センター
井戸	—
マンホールトイレ	作野小学校
学校	作野小学校
保育園	作野保育園
幼稚園	さくの幼稚園
公民館・福祉センター	作野公民館、作野福祉センター

※大規模災害時にのみ開設される救護所

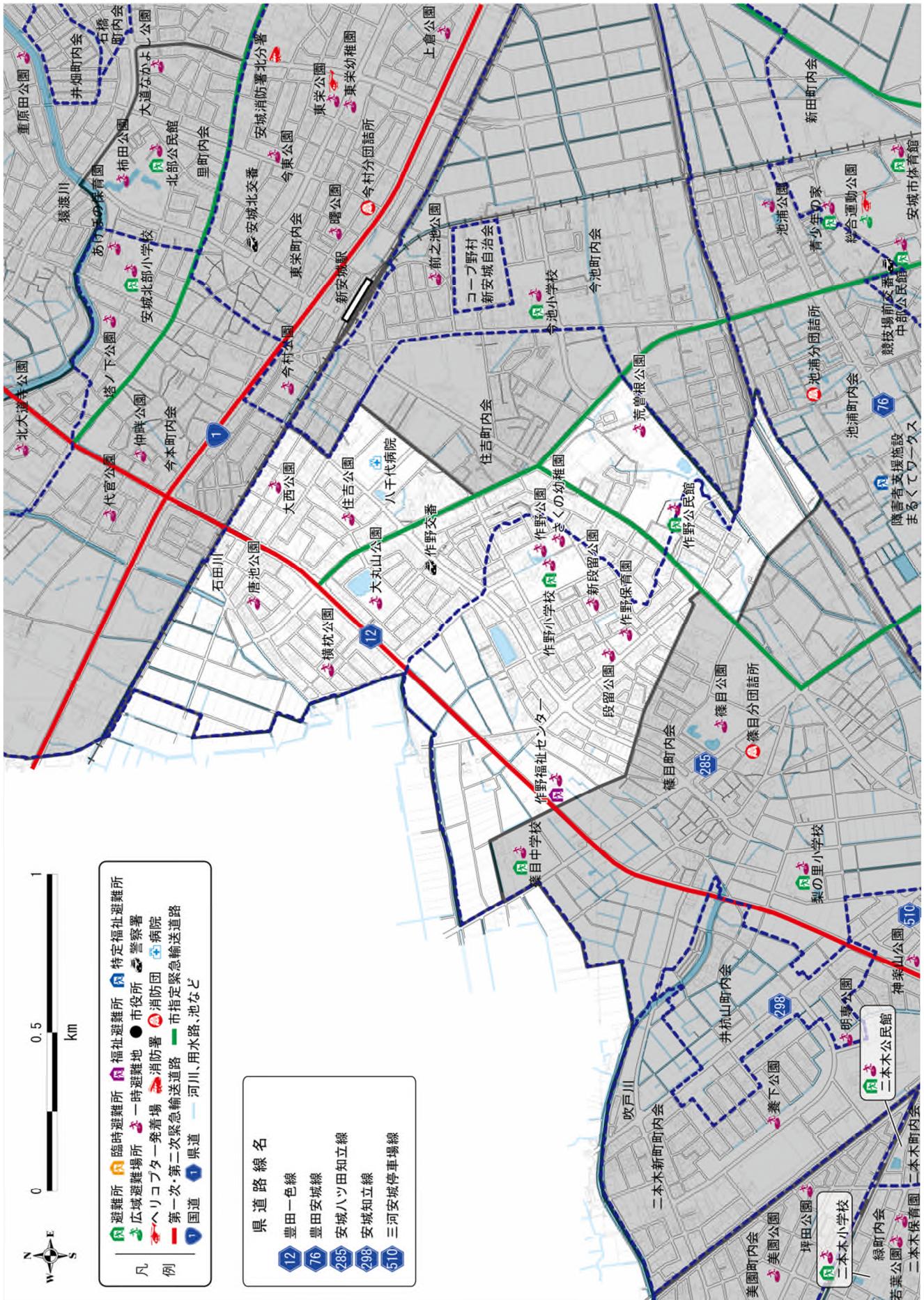
7. 避難所等一覧

避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所	作野小学校	76-6056	篠目町 4-22-1	270
		作野公民館	74-3977	篠目町古林畔 26	300
福祉避難所等	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	福祉	作野福祉センター	72-7570	篠目町二タ又 27-1	70
避難場所等	区分	名称	所在地	面積[m ²]	
	一時	荒曾根公園	住吉町小根 32-1	27,500	
		大西公園	住吉町 1-5	4,000	
		横枕公園	住吉町 5-9-4	2,000	
		唐池公園	住吉町 5-32-2	2,000	
		新段留公園	篠目町 4-16	1,600	
		大丸山公園	住吉町 7-83-1	3,200	
		作野公園	篠目町 4-22-20	3,500	
		住吉公園	住吉町 6-7-8	2,800	
		段留公園	篠目町 3 丁目 1-8	2,200	
		作野小学校	篠目町 4-22-1	6,500	
		作野公民館	篠目町古林畔 26	2,300	
		作野福祉センター	篠目町二タ又 27-1	1,600	
		作野保育園	篠目町段留 4-7-1	900	
さくの幼稚園		篠目町 4-22-21	2,100		

8. 防災上の課題

- ・昭和 57 年以降に建てられた建物の多い地区ではあるが、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 6%、理論上最大想定モデルで約 38%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 4 人、理論上最大想定モデルで 53 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進める必要がある。
- ・火災による建物被害では理論上最大想定モデルで全壊・焼失棟数が 81 棟となる想定が出ている。火災による建物被害を減らすためには、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。

9. 防災関連施設分布図



※最新の地形図とは異なる場合があります。

平成28年8月配布
安城市危機管理課